

第5回在宅ケア多職種連携活動発表会

日時 平成29年11月22日（水） 午後7時～

会場 ウェルパルクまもと 1階大会議室

会 次 第

○19:00～ 開 会

○19:05～

活動発表（1グループ 15分）

【座長】まつもと在宅クリニック 松本 武敏 先生

	団体等	活動名
1	看護小規模多機能居宅介護事業所「とりい」	地域に根ざした看護小規模多機能型居宅介護事業所の取り組み
2	east（東区）ケアカフェ	east（東区）ケアカフェ
3	ざっくばらん会	シームレスな多職種連携実現に向けて西地区での取り組み
4	白春古（花陵校区主任ケアマネジャーの会）	地域での医師とケアマネジャーの連携の取り組み
5	地域・多職種連携会「ミナサンカ」	みんな参加でまちづくり～ミナサンカ～
6	植木町地域支援「すいか」倶楽部	すまい・いりょう・いきがい・かいご・でつながる植木町

○20:40～ 質疑・意見交換

○21:00 閉 会

看護小規模多機能居宅介護事業所「とりい」

1. 活動名

地域に根ざした看護小規模多機能型居宅介護事業所の取り組み

2. 団体等について

名称	看護小規模多機能居宅介護事業所「とりい」
代表者	松下 和孝

3. 活動概要

活動歴	約6ヶ月（平成29年4月～）
活動のきっかけ	急性期或いは回復期の医療機関から退院後、在宅療養へ移行しても、すぐに医療機関へUターンされる患者も多い。そこで、家族のレスパイトとしての役割と看護の提供及び機能訓練、日常生活上の世話をし、看取りまでも可能とする活動を行うことで、在宅で安心して継続療養できると考えたため。
活動人数	15名
活動目標	疾患を持った高齢者の在宅療養の継続に向けて、利用者及び家族の支援を行う。また、地域に密着した活動を行い、地域と共に歩む施設運営を行う。

4. 活動内容

熊本市内の急性期病院や回復期病院の地域連携室から紹介を受け、利用者の受け入れを行っている。現在、通所利用者平均15名/月、宿泊利用者平均12名/9日/月である。

利用者の疾患は、大腸がん・糖尿病・脳梗塞・咽頭癌・慢性腎不全などであり介護度は平均3.3である。

看護職員は、利用者の創傷ケアや腹膜透析の管理、血糖コントロールなど、かなり専門性の高いケアを提供している。また、疾患を持った利用者の入浴サービスやSTやPTとの連携による機能回復訓練も提供している。がん末期の利用者については、ターミナルケアや看取りを行っている。

また、利用者が疾患を持った方々であるため、在宅医との連携は特に重要で、情報の共有など関係性の維持構築に努力している。

更に地域交流においては、民生員の方々や老人会の方々と交流会を開催し、地域の夏祭りやボランティア活動にも積極的に参加している。

看護小規模多機能居宅介護事業所を立ち上げて半年が経過したが、これまでの活動における事例紹介と見えてきた課題について報告する。

5. 今後の展望

疾患をもって地域で生活する高齢者は、今後増加すると予測される。疾患を持った高齢者とその家族が安心して地域で暮らして行くためには、当施設のような看護機能をもった施設のニードが高まる。しかしながら「看護小規模多機能」の役割について、未だ医療機関や地域に浸透していない現状から、今後は私たちの活動について地域に向けて啓蒙普及を行う必要がある。今後地域の方々が、其々のQOLに合わせてより効果的に当施設を利用して頂くために、利用者や家族・在宅医・効果的看護師・介護士その他の医療従事者との連携を強めていきたいと考える。

east（東区）ケアカフェ

1. 活動名

east（東区）ケアカフェ

2. 団体等について

名称	east（東区）ケアカフェ
代表者	片山 雅喜

3. 活動概要

活動歴	1年（平成28年11月～）
活動のきっかけ	別の地区での活動に参加し、熊本市東区でも開催したいと思い友人と開催しました。
活動人数	管理人3名、コアメンバー約20名、通算参加人数（3回まで）130名
活動目標	地域のケアに関わる人たちが、お互いに顔の見える関係を築き現場に活かす事

4. 活動内容

日ごろのケアを相談できる場所づくりを通して、地域のケアの質の向上を目指しています。3ヶ月に1度開催し、カフェのような雰囲気の中で1テーブル4名程度の少人数で話し合い大きなテーマのもと、テーブルに用意された紙に話をしながら自由に書き込む。コーヒーやお茶やお菓子を持ち寄り「相互扶助」でお互いを尊重し、考えを認め合いながら参加している全ての人が意見を出し合う。そのような中から顔の見える関係をつくることを活動内容としています。

5. 今後の展望

多職種の方々と協力し、今後も東区ケアカフェを維持していくとともに、さらに顔の見える関係をつくる事を広げる為、他地区でのケアカフェの開催に協力していきたい。

ざっくばらん会

1. 活動名

シームレスな多職種連携実現に向けて西地区での取り組み

2. 団体等について

名称	ざっくばらん会「通称：ばらん会」
代表者	井手 浩信

3. 活動概要

活動歴	約4ヶ月（平成29年7月～）
活動のきっかけ	地域リハの実現のためには、我々専門職のひとりよがりではなく、多職種との連携が大事。現在、連携という言葉だけが先行し、西地区においても病院や介護サービス事業所での連携において不十分さが目立つ。今後、地域リハに求められることとして医療・介護の連携と言われているが、地域で診てきた方が入院し再び在宅となった際に、病院と在宅との連携や地域の病院との連携が必要となってくる。実際にどれだけできているだろうか。「連携」という言葉では難しいが、「連携」を堅苦しく考えるのではなく、ざっくばらんに考えて、ざっくばらんに情報交換や情報共有ができればシームレスな関係作りができるのではないだろうか。まずは西地区の理学療法士から発信していくことで、小さいながらも地域リハの実現が出来ればと思い立ち上げに至った。
活動人数	随時異なる
活動目標	地域間の横の繋がりが気軽にでき、また専門職としてのスキルも地域の中で高める。特に若い医療・介護従事者が地域の中で成長し、今後の育成指導を後世まで続けていく。

4. 活動内容

西地区の理学療法士を中心に定期的な研修会を実施。専門的な研修だけでなく、コミュニケーション方法、他職種との共同研修会を行なっていく。また、これからを担う若い医療・介護従事者が地域の中で成長し、今後の育成指導を後世まで続けていくようにしていきたい。第1回目の活動として、建築士会青年部との住宅環境についての意見交換会を実施。様々な視点での考え方の違いを深く感じ、手すりの設置方法や場所など具体的事例を通して意見交換を行ない職種が違えば視点も違い新たな発見であり多職種共同での大切さを強

く学びました。

5. 今後の展望

ばらん会の活動を通じて、地域間の横の繋がりが気軽にでき、また専門職としてのスキルも地域の中で高めていきたい。国が考える本当の地域リハとは、地域全体が居住者を支えるスタッフであり、支えるとは常に身近に必要な情報交換や共有をリアルに行え安心して住める環境をみんなで作っていく必要がある。私一人だけでなく、関わる病院や事業所みんなが揃って初めて地域リハ実現に繋がると考えた。

白春古（はくしゅんこ）

1. 活動名

地域での医師とケアマネジャーの連携の取り組み

2. 団体等について

名称	白春古（はくしゅんこ）（花陵校区主任ケアマネジャーの会）
代表者	青山 寛

3. 活動概要

活動歴	3年（平成26年6月～）
活動のきっかけ	花陵校区（白坪、春日、古町）で所属の事業所の異なる主任介護支援専門員で集まり、主任ケアマネジャーとして、何か地域に役立つ活動を行いたいとの思いから。
活動人数	12名（6事業所）
活動目標	①地域のネットワーク作りと地域貢献を行う。 ②地域のケアマネジャー支援と技術向上を行う。 ③地域の社会資源（インフォーマルサービス）の発掘と調査を行う。 ④ささえりあ花陵との連携。

4. 活動内容

<p>①地域のかかりつけ医とケアマネジャーとのネットワーク作り。（しんかんせん）を年間2回開催。</p> <p>しんかんせんについて</p> <p>ささえりあ花陵に事務局を設置。</p> <p>世話人会でテーマや内容を検討。</p> <p>世話人会は花陵校区の医師3名、主任ケアマネジャー3名（白春古メンバー）で構成。</p> <p>平成28年3月第1回テーマ ～医師とケアマネジャーの連携について～</p> <p>平成28年11月第2回テーマ ～熊本地震時の連携、取り組みについて～</p> <p>平成29年6月第3回テーマ ～効率的なサービス担当者会議について～</p> <p>各回とも地域の医師とケアマネジャーへテーマについて、事前にアンケートを行い、アンケート結果をもとに当日グループワークを行う。</p> <p>地域の医師とケアマネジャーがお互いに顔の見える関係作りができることを目的に開催をしている。</p>
--

開催後の変化として、

地域のケアマネジャーさんからは、「参加している医師に相談がしやすくなった。」

医師からは、「参加していたケアマネジャーさんがよく病院に来られるようになった」などの感想も聞かれている。

②事例検討会や専門家や事業所を交えての研修会。

③地域のインフォーマルサービスの調査、ささえりあ花陵と共同でインフォーマルサービス一覧の冊子を作製（年1回更新と発行）

④地域ケア会議への参加。困難事例への対応。その他。

5. 今後の展望

①に関しては、医師とケアマネジャーだけでなく、他の職種の方へも広げていき、より地域密着型の連携を深めていきたい。

②～④今後も継続をしていく。

地域・多職種連携会「ミナサンカ」

1. 活動名

みんな参加でまちづくり～ミナサンカ～

2. 団体等について

名称	地域・多職種連携会「ミナサンカ」
代表者	長谷川 健

3. 活動概要

活動歴	2年（平成28年1月～）
活動のきっかけ	熊本市東区の秋津・桜木・桜木東・若葉の4校区あさひば地区の「居宅包括連絡会」と「介護サービス事業所連絡会」、平成26年に発足した当地区へ医療、福祉、保健などで協力する圏域内外の事業者らで作る「介護予防支援活動委員会」を平成27年に統合し多職種連携会を発足。地域住民によるまちづくりをバックアップする体制づくりに至る。
活動人数	30-150名
活動目標	自分たちの仲間づくり、連携の場としての多職種連携会と、地域の後方支援者として、住民とのまちづくりの協働を推進する地域連携会を展開している。「できる人が、できる時に、できる範囲で」をスローガンに、住民や支援者の個に負担にならない、広くみんなで参画し続けられる地域づくりをめざしています。

4. 活動内容

<ul style="list-style-type: none">・プロジェクトリーダー制により、参加メンバーで交代しながら会長副会長を置かずお客様にならない全員参加型体制で活動。・サイボウズライブを活用し情報を共有。・あさひば校区（秋津、桜木、桜木東、若葉小学校区）にサービスを提供する事業者や企業などが集まり、企画運営の為に協議を、毎月第3火曜日定例会を実施。・多職種連携会では、圏域内外の事業者、企業などを中心に「本気で語り合える仲間作り、情報の共有と連携」を目的に平成27年12月から4カ月毎（年3回）に連携会を開催。・地域連携会では、地域住民と専門職や企業等が4校区それぞれでグループを作り、地域ケア会議で取り上げられた課題からテーマを自分たちで選び議論やアイデアを出し合う機会として今年6月に発足会を開催。11月より熊本市地域支え合い事業として4カ月毎の
--

定期開催（年３回）を予定。

・今年８月定例会より広報部会を立ち上げ、ミナサンカを知ってもらい、住民への広報方法を検討中。

5. 今後の展望

まずはすべての校区で協議する場を作る為、秋津、桜木、桜木東、若葉４校区一緒に連携会を開催。しかし、各校区で抱える優先すべき課題は地域性で異なる。連携会の住民参加を広げていき、方向性としてそれぞれを支部制としての開催へ移行し、地域の特性を生かしたまちづくりを推進していく。

運営状況としては、現在は社会資源事業所中心にささえりあ桜木・秋津が事務局を担っているが地域の自発的な取り組みとその継続の為に、包括⇒社会資源⇒住民への事務局機能も含めた運営主体を移していきたい。

主役である住民にとって多くのプロ（専門職、企業）の仲間がいる事。住民もプロも個々が負担にならない、より広い人材確保を進めながら「継続される地域に必要な取り組み」を目指しています。

植木町地域支援「すいか」倶楽部

1. 活動名

すまい・いりょう・いきがい・かいご・でつながる植木町

2. 団体等について

名称	植木町地域支援「すいか」倶楽部
代表者	平田 貴文

3. 活動概要

活動歴	3年（平成26年11月～）
活動のきっかけ	平成26年1月10日に開催された「北区在宅医療・介護に関わる多職種連携世話人会」に参加し、日常生活圏域での医療・介護の連携に関する取り組みの必要性を感じたため。
活動人数	13名
活動目標	在宅医療や介護等に関する様々なアドバイスや普及啓発活動をおこない、植木町の住民の皆さまが、可能な限り住み慣れた地域で安心して生活ができる地域づくりをおこなう。

4. 活動内容

毎年、住民や専門職を対象に「市民フォーラム」や「ケア・カフェ」を開催し、在宅医療や介護等に関する様々なアドバイスや普及啓発活動をおこない、またこれらの活動を通じて多職種のネットワーク作りや情報交換等もおこなっている。

5. 今後の展望

今後も毎年「市民フォーラム」や「ケア・カフェ」を開催し、またそれ以外にも地域の様々な行事やイベントにも参加しながら、引き続き在宅医療や介護等に関する様々なアドバイスや普及啓発活動をおこなっていく。また、それらの活動を通じて多職種による更なるネットワーク構築を目指していく。